

歴史編(近・現代編) 目次

はしがき

東京学芸大学教授 理学博士 市川 健夫

第一章 軽井沢の風土と近・現代

第一節 軽井沢の地理的位置

- 一 信濃国・長野県の玄関.....7
- 二 軽井沢の位置.....9

第二節 リゾートとしての軽井沢の風土

- 一 屋根のない病院.....10
- 二 高原的風土.....12
- 三 緑に包まれた自然.....13

目次

第三節 国際文化観光都市・軽井沢

目

一	国際的なリゾート	15
二	東京の週末旅行地	16
三	外来資本による開発	18
四	軽井沢の地域文化	19

第二章 明治前期の歩み

あらまし	22
------	----

第一節 明治維新と軽井沢

白田中学校教諭 上原 邦一

一	西牧騒動	23
二	戊辰戦争と時代の夜明け	28
三	伝馬助郷の廃止から交通自由時代へ	33

第二節 戸長役場の成立

一	動揺静めの勅使	34
---	---------	----

二	廃藩置県……………	37
三	自治のはじまりと村の状勢……………	38
四	村の統合と戸長役場……………	47
五	軽井沢地域と県会……………	56
第三節 碓氷新道と直江津線の全通		
一	七道開鑿の第一号路線……………	58
二	人と車が賑わう新道……………	61
三	馬車鉄道の開業……………	65
四	中山道鉄道と直江津線……………	69
五	郵便・電信時代の到来……………	77
第四節 軽井沢の文明開化		
屋代高等学校教諭 小林 英一		
一	外国人の浅間山登山……………	82
二	振起・又新・分里・発仁四小学校の開設……………	86
三	軽井沢 峠・長倉・追分・発地の村誌……………	90

第三章 明治後期の歩み

あらしまし……………94

第一節 町村制の施行と村政

白田中学校教諭 上原 邦一

一 東・西長倉村の成立……………95

二 行政と組織……………98

三 東長倉村役場の位置で対立……………99

四 村の行政と予算……………102

五 村と郡会・県会……………106

第二節 外国人による避暑地の発見と形成

長野県望月少年自然の家所長 小林 収

一 避暑別荘地のはじまり……………109

豪雨に沈下した軽井沢（コラム）……………134

第三節 交通の発達と地域産業

白田中学校教諭 上原 邦一

一 鉄道の発達と地域……………141

二	雨宮敬次郎らの開発事業	151
三	新しい地域産業の形成	158
	山間の独立区「小瀬林業村」(コラム)	164
	天然製氷(コラム)	170
第四節 庶民の生業と生活		
一	地域の発展と村政	174
二	交通革命と地域の変化	177
三	追分 杓掛のよみがえり	190
四	日清・日露戦争と長倉村	194
五	国際避暑地化の伸展	199
	飯田事件と桜井平吉(コラム)	204
第五節 義務教育の普及と地域化		
	屋代高等学校教諭 小林 英一	
一	小学校教育の整備	205
二	高原と活火山の自然研究	208
三	軽井沢のテニスとスケート	216
四	内・外国人の軽井沢観	221

目 次
第四章 大正時代の歩み

軽井沢の若山牧水（コラム）……………226

あらまし……………229

第一節 第一次大戦中、戦後の好況と軽井沢
植生中学校教諭 大橋 幸文

一 第一次大戦と軽井沢……………231

二 戦後恐慌と町政……………234

三 社会問題の発生……………235

第二節 別荘地の拡大と変貌
長野県望月少年自然の家所長 小林 収

一 野沢原を中心とした別荘地造成……………237

二 千ヶ滝と南軽井沢別荘地の開発……………241

三 星野温泉と別荘……………245

にせ赤い鳥事件（コラム）……………247

四 軽井沢避暑団の活動……………248

北原白秋の絶唱「落葉松」（コラム）……………252

一	大正時代の小学校教育……………	280
二	軽井沢の夏季大学運動……………	287
	追分節の正統（コラム）……………	294
第五章 昭和前期の歩み		
	あらまし……………	296
第一節 軽井沢の国際化と観光地他		
	長野県望月少年自然の家所長 小林 収	
一	交通の整備と観光地化……………	297
二	避暑生活とその特色……………	302
三	戦争の進展と国際的舞台としての軽井沢……………	305
第二節 昭和恐慌と軽井沢		
	埴生中学校教諭 大橋 幸文	
一	経済不況と町村政……………	312
二	恐慌とその対策……………	318
三	生活改善運動などと行政……………	322

第三節 戦争の激化と社会生活

- 一 戦争の勃発と翼賛運動…………… 324
- 二 戦時下の産業と経済…………… 329
- 三 観光開発と行政…………… 335
- 長谷川伸作「杓掛時次郎」(コラム)…………… 339

第四節 戦時下の行政と新軽井沢町の誕生

- 一 戦時下の町政…………… 340
- 二 都市計画の策定…………… 348
- 三 西長倉村との合併と新軽井沢町の誕生…………… 348
- 四 戦時下の町民生活…………… 351
- 五 軽井沢の戦死者…………… 358
- 満州移民(コラム)…………… 362

第五節 昭和恐慌と戦時下の教育

- 一 戦時下の小学校と国民学校…………… 362
- 軽井沢高等女学校の創立(コラム)…………… 368

屋代高等学校教諭 小林 英一

二	浅間山火山の観測と植生・野鳥	369
三	軽井沢・追分の堀辰雄	376
四	津村信夫・立原道造の青春の詩	380
	川端康成の「高原」(コラム)	383

第六章 昭和後期の歩み

	あらまし	386
--	------	-----

第一節 敗戦と占領下の軽井沢

上田西高等学校教諭 佐々木清司

一	八月十五日の敗戦と軽井沢町の動向	387
二	米占領軍の軽井沢接収	391
三	新しい地方自治の展開	397
四	食糧危機と町民の生活	405
	第二節 農村の諸改革と食糧政策	
一	農地改革と農村の民主化	410
二	農業協同組合の発足	415

三	高原野菜の産地形成……………	417
四	食糧の増産運動……………	421
	大日向開拓地の建設（コラム）……………	430
第三節	国際文化都市の指定と軽井沢……………	
	長野県望月少年自然の家所長 小林 収……………	
一	ホテルの再開と復興への動き……………	432
二	第二次大戦後の別荘や避暑客の様子……………	434
三	「国際親善文化観光都市」の指定……………	438
四	皇太子ご成婚とテニスブーム……………	446
五	スケートによる冬の観光……………	448
六	スポーツとレクリエーション施設の増加……………	453
七	会社・学校寮の増加……………	459
第四節	地域経済の発展と町政……………	
	上田西高等学校教諭 佐々木清司……………	
一	経済復興期の町政……………	463
	浅間山米軍演習場問題（コラム）……………	465
二	沓掛の大火と復興……………	471
三	個性のある地場産業の展開……………	475

一 軽井沢中学・高校の発足……………	481
軽井沢夏期大学の再開（コラム）……………	488
二 疎開以後の室生犀星・正宗白鳥……………	489

第七章 現代の軽井沢

あらまし……………	498
-----------	-----

第一節 経済の高度成長と地域経済

上田西高等学校教諭 佐々木清司

一 自動車交通の発達と軽井沢……………	499
二 草軽電鉄の廃止と信越新線の建設……………	504
三 農林業の変容……………	513
軽井沢の災害（コラム）……………	521

第二節 町政の展開と社会福祉

一 町政の展開……………	522
--------------	-----

	あさま山荘事件（コラム）……………	540
	二 新軽井沢大火と区画整理事業……………	541
	三 軽井沢町の財政と公共投資……………	547
	四 社会福祉事業の展開……………	555
	第三節 観光都市としての軽井沢……………	
	長野県望月少年自然の家所長 小林 収	
	一 戦後の大規模な別荘地造成……………	564
	二 夏期出張店の増加と商店街の変貌……………	569
	三 自然保護・環境保全への動き……………	572
	政治家の別荘と軽井沢（コラム）……………	574
	第四節 教育文化・スポーツの発展……………	
	屋代高等学校教諭 小林 英一	
	一 軽井沢の小 中・高校……………	576
	二 公民館活動と図書館・資料館……………	583
	町民の詠んだ短歌（コラム）……………	588
	三 軽井沢の自然観照と保護……………	589
	四 遺跡の発掘と文化財保護……………	594
	軽井沢の文学散歩と昔語り（コラム）……………	599

五 オリンピック馬術競技大会の開催	600
軽井沢町志（歴史篇）の発行（コラム）	602
第八章 年表	603
軽井沢町歴史民俗資料館運営協議会委員 島崎 清	
参考文献	740
軽井沢町誌刊行委員会	751
写真・資料ご協力者	753